

庄原市観光振興計画概要

計画のねらい

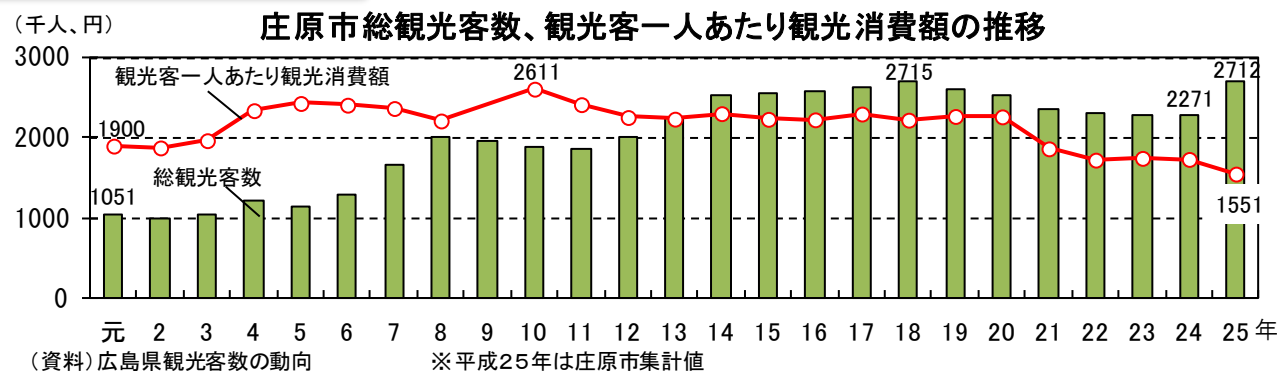
- 地域経済の活性化等をめざし、観光振興の目標と施策の方向性の明確化
- 市・関係団体・事業者・市民等による役割分担と観光推進体制の強化



社会情勢の変化への対応

- 人口減少と旅行需要の変化
 - ・人口減少に伴う地域活力の低下
 - ・地域らしさをより味わいたい旅行者の増
 - ・体験型教育旅行ニーズの高まり
 - ・ICTツールを活用した情報収集
- 高速交通網の整備と外国人旅行者の増加
 - ・尾道松江線の全線開通
 - ・新幹線および航空ネットワークの充実
 - ・アジアなどの訪日旅行者の増
 - ・2020年東京オリンピックの開催

庄原市観光の現状



- ・総観光客数は平成18年をピークに近年減少傾向であったが、平成25年は松江道開通により増加。
- ・観光拠点施設およびスキー場などの観光客が減少。オープンガーデンなど新たな観光資源化で増加。
- ・山陽・山陰の日帰り客が多数で、家族旅行および夫婦2人旅行が多い。
- ・観光客1人当たり観光消費額は平成10年をピークに減少。

庄原市観光の課題

- ①観光情報発信力の不足
 - ・認知度が低い
- ②市全域の周遊不足
 - ・尾道松江線開通効果が限定的
- ③観光消費額の低迷
 - ・庄原市ならではの食や物産の不足
 - ・宿泊客数が少ない
 - ・着地型観光のビジネス化
- ④ターゲットの不明確さと戦略不足
 - ・来訪者ニーズの把握不足
 - ・中高年・女性視点の不足
- ⑤おもてなしの気運と人材不足
 - ・地元観光資源を知らない
 - ・観光人材の不足
- ⑥観光推進体制の不足
 - ・関係者の役割分担が不明確
 - ・ワンストップサービスの不足
- ⑦二次交通アクセスの不足
 - ・レンタカー、観光タクシー、送迎バス等の不足
- ⑧観光資源の競争力の弱さ
 - ・山陽・山陰の有名観光地の谷間

庄原市観光の強み

- ①自然の豊かさと歴史の深み
 - ・比婆道後帝釈国定公園等の景勝地
 - ・古事記やたたら文化などの歴史
 - ・国営備北丘陵公園、スキー場、温泉施設、キャンプ場、ホテル等
- ②農業のまちがもたらす食材の宝庫
 - ・りんご・夏秋いちご・生乳・大根・卵など県内最大級の生産量
 - ・比婆牛・お米・日本酒などブランド力のある産品
 - ・市内全域に物販拠点施設が点在
 - ・ワニ料理などの郷土料理や庄原焼きなどのご当地グルメ
- ③広域観光流動の中間地点
 - ・山陰～山陽の真ん中(出雲～宮島などA級観光地の中間に位置する)
- ④花と緑のまちづくり
 - ・市民主体のオープンガーデンの実施
 - ・山野草の保存と公開
 - ・世界的ガーデナー石原和幸さんの庭
- ⑤人の温かさ・優しさ
 - ・観光地ひろしま！おもてなしアワード受賞

庄原市観光のめざす姿

計画対象期間 平成26年度～30年度（5年間）

基本コンセプト

さとやま遊びで感動を生む観光地域づくり

将来像

さとやまを体験する人が増える

花と緑、山を楽しむ人が増える

自慢の食・特産品が増える

情報発信力が高まる

その結果

- 周遊観光が促進され、庄原市の観光客数、宿泊客数、観光消費額が増加
- ワンストップサービスの提供により来訪者の満足度が向上

産業化・活性化・ブランド化で地域が持続的に発展

目標

指標名	現状 (平成25年)	目標 (平成30年)
総観光客数 (観光地利用者数)	2,712千人	2,820千人 (4%増)
観光消費額	4,209,683千円	4,504,361千円 (7%増)
来訪者の満足度	53%	60%

施策の展開

1. さとやまの特色を生かした観光地域づくり

(1)豊かな自然と歴史を生かした山遊びの充実

- ①山遊びフィールドの充実②雪山の誘客促進
- ③アウトドアメニューの充実

(2)花と緑のまちづくりの推進

- ①「花と緑のまち・庄原」の充実
- ②「花と緑」をテーマにした周遊促進

(3)食材の宝庫を生かした観光地域づくり

- ①庄原の逸品づくり ②物販拠点施設の販売力強化
- ③食のまちづくり

(4)ほんもの体験メニューの充実と教育旅行誘致

- ①「ほんもの体験」メニューの充実
- ②体験型教育旅行の誘致

(5)さとやま文化を生かした外国人旅行者の誘致

- ①雪山の誘客促進 ②外国人を魅了する観光地域づくり

2. 観光情報発信の強化と観光客の周遊促進

(1)認知度向上に向けたプロモーションの強化

- ①各ターゲットに応じた情報発信
- ②ブランドイメージの形成

(2)観光客の周遊促進

- ①広域周遊観光の促進 ②市域内周遊の促進

3. 観光推進体制の充実と人材の育成

(1)プロデュース機能の強化と関係者の連携

- ①観光地域づくりプラットフォームの構築
- ②観光関係者間の連携強化

(2)観光人材の育成による「おもてなしの充実」

- ①おもてなし人材の育成 ②地元意識の醸成